

——そうですね。その人の人生そのものですよ。

だから本当に深く、長く、強く関わらないと見えてこないものなんですよ。

当時は明らかに僕のクラスだけ進路指導が異常でした。

生徒からも保護者からも同僚からも「進路指導の鬼」と言われてました。放課後に僕を見つけると、うちのクラスの生徒が言うんです。「ああ、鬼が来た〜」って(笑)。

——どこが一番、熱意を込めていらしたんですか？

本人の進むべき道は本当にそれでいいのか？ という点です。

さっきのボタンの話ですけど、本人が言う「私はこう行きます」を僕はそう簡単には認めない。

これは自分の過去十年間の研究の中でやっと得たテクニクのひとつなんですけど、自分の進路が固まっている子はあえて揺さぶるんですよ。で、何も決まっていな子はこっちが勝手にどんどん決めるんです。

これを強烈に進めると結局、反対の要素を自然と取り入れるんです。固まっている子は悩むし、固まっていな子は僕があまりにも勝手にどんどん決めるから、本気になって考え始めて、自分で語り始めるんですよ。

——なるほど。

僕の本音は本人の決定を応援したいんです。ただ実際には本人の考えを揺さぶっていく。

だから信頼関係ができるまではめっちゃくちゃ嫌われますよね。

もう面と向かって言われましたもん。「私、木内先生を選んだの本当に後悔してる」って。「なんなんですか？」みたいな感じだし、「もうほんと木内最悪なんだけど！」ってみんな親とかに言うわけですよ。

保護者からも「あー、先生。なんか娘がもう木内先生に会いたくないとか言ってるんですけど……せつかく学校に行けるようになったのに、どういうことですか？」みたいな感じで。こちらの意図を理解していただくのに時間もかかりました。

## 魅力ある大人をつくる

——そして今年から新しい学校を中川学校長とスタートされましたが、通信制高校やサポート校が増えてきた中で、湘南一ツ星高等学院の役割は何だと思われませんか？

あえて湘南一ツ星を立ち上げたのは、どの生徒も本気で自分の進路に挑戦できる学校をつくりたかったということです。

すごく簡単に言うと、僕が理想とする教育は教育基本法に書いてある通りです。しびれる言葉が書いてあるんですよ。ちよつと読みますね。

「教育の目的及び理念(教育の目的)」



写真上：合唱祭に向けたクラス練習で。  
写真右：海遊びのクラス会で生徒たちに生き埋めにされる木内さん。  
「卒業生ともずっと付き合いを続けられるのは、教師の仕事の楽しいところですよ。なかなか普通の仕事じゃありえない」と話す。卒業生と一緒にバーベキューをしたり、キャンプに行くことも。



第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」

自分はこれに百パーセント賛同してるんです。これに狂ってるって言うてもいいですよ、もう。

人格の完成を目指してるんです。そんな自分も未熟だから。スキルを磨こうが、大学に無理やりぶちこもうが、人格の完成が抜けたら意味ないと僕は思っています。

その上であえて教育基本法的一条に批判的な観点を加えるとしたら、個人の資質と人間性と心身の健康は形成されるわけですけど、その人が果たして自分の仕事にやりがいや魅力を感じたりするかどうか、というのはあります。

働くことは楽しい、働きたい——だから魅力ある大人なんですよ。魅力ある大人をつくる。そのためにどうあるべきか？

賢くて、健康で、心も体も。そして何より人間性が豊かで、なおかつ働くことが面白いとか、自分の仕事にプライドを持つてるとか、そうなったら最高だなんて思います。それを一人でも多くつくるっていうことに愚直に挑戦したくてここをつくりました。

——木内さんのものすごい熱量を感じます。

最後にこれまで接してきた中で一番印象に残ってる生徒さんとのエピソードを聞かせていただけますか？

そうですね……すごい僕のことを嫌ってて、僕も苦手だった女の子が何人かいたんですね。

どんなにこちらが心を砕いて、どんなに一生懸命指導して、どんなに話を聞いても、やればやるほど溝が深まるばかりみたいなの。そういうケースの子がいたんですよ、三人ぐらい。

## 信じて向き合おう

本当に僕も心が折れかかって、円形脱毛症になったことが二回ぐらいあるんです。どうしたらいいのかもうさっぱりわからないみたいなの。

——手も足も出ない感じ。

手も足も出ない。なんかハリネズミを手で掴みたい感じがして、やればやるほどグサ！ みたいな感じで、どんどん毛も抜けるし(笑)。報われない日々がずっと続いたんですよ。

で、そのうちの一人の子が、卒業式でスピーチする機会があったんですよ。

そしたらその子が僕の方を向いて「木内先生、今まで言えなかったことを言います」って、いきなり語り始めるわけですよ。

「今まで先生にずっと反抗してきて、すごい嫌な思いをさせてすみませんでした。心の底から申しわけなかったです、でも自分はやえなかったんですよ」と。

「私がネガティブに接しても先生は一生懸命私に向き合ってくれているんで、正直この人だったらぶつけても大丈夫だと思って、余計スイッチが入って——進路から逃げていた私が、行きたかった大

学に行けたのは先生のおかげです。

私が先生に与えちゃった傷はそう簡単には癒えないかもしれないけど、これ聞いて許してください。本当に感謝しています」って。僕はもう号泣してそのまま立ち尽くす、みたいな感じですよ(笑)。

——嬉しいですね……その生徒さんとは今も交流はあるんですか？

今は不動産の企業に勤めてて、元気に楽しくやっています。

「先生、今度私おごるんで一緒に飲みいきましょう」って誘ってくれて。

すごいネガティブになってる子でも、本当に心が離れていないのであれば、信じて向き合わなきゃいけないなって。

卒業式で、やっと報われました(笑)。



木内 達也(きうち たつや)

1984 年生まれ。  
湘南一ツ星高等学院  
進路指導部長